

ダイワコーポレーション

(曾根和光社長、東京都品川区) 経営本部の先崎良三(ささき りょうさん)アドバイザーは、社員の成長を促す各種研修や対話を通じて社員のフォローなど、これまで培った知識や経験を生かし、「和」のある組織風土づくりに貢献している。

2025年度は、人的資本経営の基本となるエンゲージメント(働きがい)向上の取り組みに特に力を注いだ。

山一証券で個人・法人向け営業を経験し、本社事業法人資金運用部次長を務めたが、山一の自主廃業に伴い1998年にダイワコーポに入社。当時社長だった故曾根功氏には「とにかくよく怒られた」という。「営業所の修繕について、功氏に相談せず自身の判断で決めた時は『お前は、生まれたばかりの赤子だ』と叱責された」

何度も降格を味わったが、こうした経験から「仕事上で判断すべき時は功氏を説得するための材料を集め、専門家

「和」ある組織風土に貢献

ダイワコーポ

の意見を聞き、顧客の意向や社内の意見を確認・参考にするよう心掛けるようになった。仕事の仕方を功氏から教わった」と振り返る。

ダイワコーポでは主に人事総務畑を歩み、定年後はアドバイザーとして、社員研修の企画・実施、キャリア研修、各部門へのフィードバック、社員に寄り添う人事面談などを担当。社員が明るく楽しく働ける職場環境整備に尽力する。

25年度は、社内でエンゲ

ジメント向上のけん引役となる「エンゲージメントランナー(ER)」を各部門から募集。1月にも同社初の試みとしてエンゲージメントに関する対話・勉強会を行うことを計画している。

また、若手社員に対しては「特定の分野で一流になるには1万時間の練習・努力・学習が必要と言われる。目の前の仕事に夢中になって取り組み、濃厚な仕事時間を過ごしてほしい」とエールを送る。

(吉田英行)

経営本部アドバイザー
先崎 良三氏

エンゲージメント向上に特に力を注ぐ先崎アドバイザー(右端)

